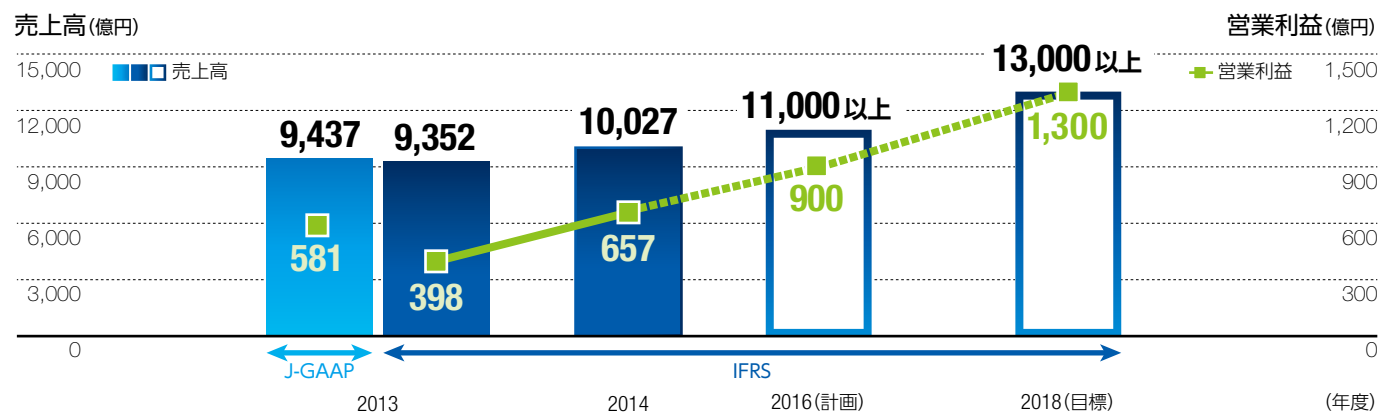


中期経営計画の進捗報告

初年度は順調にスタートしました。



TRANSFORM 2016の進捗

持続的な利益成長の実現

一貫した「ジャンルトップ戦略」のもと、成長が見込める領域に経営資源を集中することで、グローバル市場でより高いポジションの獲得を目指します。その実現に向けて、「既存事業の収益最大化」と「次世代成長に向けたTRANSFORM」を両立させるため、各事業において3段階のフェーズを定義し、計画的な成長シナリオを描いています(右図参照)。

フェーズ0では、既存事業の収益エンジンの稼働力を強化します。フェーズ1では、中期経営計画の最終年度である2016年

度に結果を出す業容転換を実行します。フェーズ2では2017～18年度に事業貢献する新たな成長エンジン創出への仕込みを2016年度までに完了させます。この3つのフェーズを同時に進めるのが当社のTRANSFORMです。

TRANSFORMを実現する3つのフェーズの定義

フェーズ0	フェーズ1	フェーズ2
既存の成長エンジンそのもの	2016年度までに確実に結果を出す業容転換	2016年度までに仕込みを完了し、2017～18年度に事業貢献する業容転換

顧客密着型企业への変革

「新しい価値の創造」という経営理念のもと、お客様や社会の課題を解決するサービスやソリューションを生み出すためには、常にお客様起点で考える姿勢が不可欠です。そこで、2014年度はOne Konica Minoltaとして、「Customer-centric(お客様本位)」な風土・体質づくりを進めました。その一方で、世界5

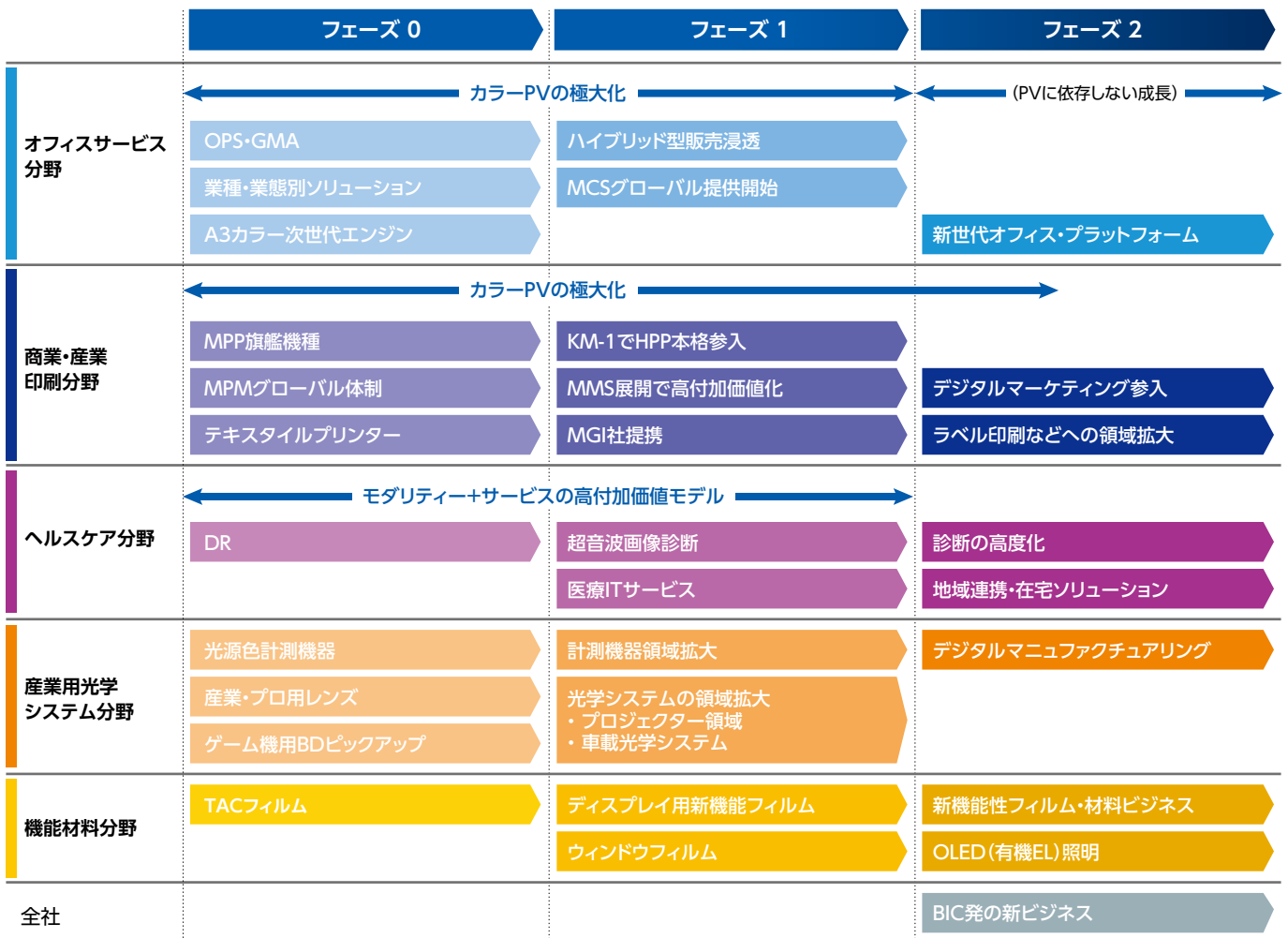
極にビジネスイノベーションセンター(BIC)を設立しました。2015年度は、より上流からソリューションを提案することで顧客密着度を向上させていきます。またBICを通じて、顧客とともに新しいサービスの創出に取り組んでいます。

強靱な企業体質の確立

「モノづくりの筋肉質化」に向けて、グループ横断的な調達、製造工程における自動化の推進、先端ICTによる設計と生産の連携などにより、生産活動の抜本的な効率化を推進。その一環として2014年度は、マレーシア生産拠点において「デジタルマニュファクチュアリング」を本格稼働させました。

あわせて「コーポレート改革」を推進し、グローバル企業に求められるグループ経営の最適化を図るとともに、経費構造の適正化による高収益体質づくりに努めました。

各事業分野の成長ロードマップ



「デジタルマニュファクチャリング」による次世代生産体制をマレーシアで本格的にスタート

マレーシアの生産拠点Konica Minolta Business Technologies (Malaysia) Sdn. Bhd.では、2014年度に「デジタルマニュファクチャリング」をコンセプトとした次世代生産体制を本格的に稼働させました。

当工場では、最先端のICTと自動化技術を融合させ、従来の生産ワークフローを大幅に効率化する生産プロセスを確立しています。これまで人手で行っていた作業を自動化することはもちろん、ICTを活用した経営コックピットも実現しており、マネジメント層が、よりの確・スピーディーに、生産に関する判断やアクションができるようになっています。最終的には、人・場所・国の変動に依存しない生産方式を実現することを目指しています。

今後は、マレーシアにおける取り組みを先駆的事例として、グローバル規模で横展開することで、グループ全体の競争力強化につなげていきます。さらに、そこで得られた知見やノウハウをお客様や取引先にも提案することで、社会全体の生産効率向上に貢献していきたいと考えています。

